

第1回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成26年6月13日（金）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター地下1階

アカデミー文京 学習室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

平成26年度 第1回 文京区アカデミー推進協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会長 水越 伸
副会長 久松 佳彰
委員 青木 和浩
委員 野口 洋平
委員 柳澤 愈
委員 塩見 美奈子
委員 井上 充代
委員 田辺 武之
委員 高澤 芳郎
委員 牧野 恒良
委員 白井 圭子
委員 荒木 時雄
委員 佃 吉一
委員 森岡 隆
委員 小林 博
委員 増田 純
委員 金坂 吉雅
委員 黒木 美芳
委員 黒田 千恵子
委員 小野澤 勝美

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長 山崎 克己
アカデミー推進部観光・国際担当課長 矢島 孝幸
アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック
推進担当課長 細矢 剛史
アカデミー推進部スポーツ振興課長 古矢 昭夫

※以下、「協議会」「推進計画」とは、それぞれ「文京区アカデミー推進協議会」「文京区アカデミー推進計画」のことをいう。

○事務局：出欠状況の確認。

時間となったので、開会します。はじめに、委員の委嘱交付ですが、本来ならば委員の皆様お一人ずつ委嘱状を交付するところではありますが、時間の都合上席上配布とさせていただきます。また、委員の任期は委嘱の日から平成28年度3月31日までの2年間となっています。次に、委員の方々の紹介を1回目ということで、簡単な自己紹介も含めてお願いいたします。

(委員名簿順に自己紹介)

○事務局：区職員紹介。

(観光・国際担当課長、オリンピック・パラリンピック推進担当課長、スポーツ振興課長、アカデミー推進課長、事務局職員3名の順に挨拶)

○事務局：次に協議会の設置要綱第5条2項により、会長を委員の互選によって選任することになっています。ご意見がなければ、事務局案として、昨年度まで会長を務められていた、学識経験者の水越委員に会長をお願いしたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。

(一同拍手)

ありがとうございます。では、水越 伸委員に会長をお願いしたいと思います。

水越会長、一言ご挨拶をお願いします。

○会長：会長を拝命しましたので、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。私は昨年もこの協議会に参加していましたが、全体の仕組みがよくわからないところもあるので、どういうメカニズムでこの会があるのかを事務局に説明いただいて、必要に応じて議論していきたいと思えます。

○事務局：次に、会長を補佐する役割として、協議会設置要綱第5条4項により、副会長を置くことになっています。「会長が指名する」ことになっていますので、水越会長に指名をお願いします。

○会長：副会長は久松委員をお願いしたいと思います。よろしければ拍手をもってご承認をお願いします。

(一同拍手)

ありがとうございます。では、久松 佳彰委員に副会長をお願いしたいと思います。久松委員、一言ご挨拶をお願いします。

○副会長：ご指名いただきましたので、皆さんと一緒にいい会を作っていきたいと思えます。

○事務局：ありがとうございました。それでは、これより議事に入りますので、水越会長に進行をお願いします。

○会長：それでは、議事に移りますが、まずは本日の資料の確認をお願いします。

○事務局：資料第1～6号、参考資料1～4号の説明。

○会長：次に、会の運営というか、どういうメカニズムでこの会があるのかについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局：参考資料第2～4号で、協議会運営の説明。本協議会の目的は、要綱の第2条に記載されているように、①文京区アカデミー推進計画の進行管理に関する事、②文京区アカデミー推進計画の推進に必要な事項について協議・検討することです。

協議会運営の確認事項及び協議会の公開・傍聴・記録の公開についての説明。これらは、前回の協議会で取り決められたものであるため、ご了承いただきたいと思います。

○会長：今回、新しい方もいるので、少し補足をさせてもらえれば。この協議会は、進行管理を行うために設置されているものですが、基本は評価だと思います。やられたことに対して、きちっと評価して次年度に繋げて行くことが大事だと思います。できれば部長から、資料2の図について、この協議会の大枠の区の体制の中での動き方について説明願います。

○委員：では、行政が大枠としてどのように動いているのかを説明します。

区の大元の計画として、10年間の将来像を描いた基本構想というものがあります。その10年間を現実的に行うため3年ごとに実施計画を作っていて、3年ごとに計画を検証する会議体が別に存在します。これが大きな流れとなって、具体的に予算化して各年度で組んでいくものです。表には、もう一つ「個別計画」があり、アカデミー推進計画は、まさにこの個別計画に当たります。私どもの所管の生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の5つの分野を所管するのは、この個別計画であるアカデミー推進計画となります。

個別計画は、他にも福祉分野などで福祉計画があったりします。そして、基本構想の実施計画とこの個別計画に整合性が取れていないと、実行性が担保されないため、それぞれに仕組みに整合性を持たせる必要があることが、この表で表されています。

会長のご指摘通り、この協議会の主な目的は評価ではありますが、評価だけにとどまらず、いろいろ議論して検証して出てきたものをまとめていただき、それを区側が受け止めることができれば、予算に反映できるものはしていきたいと考えています。また、予算査定の際の区長プレゼンなどにも生かせるのではないかと、個人的には思っています。

○会長：我々が、分野ごとに分かれて評価していくが、そこで出てきた意見をまとめて冊子にして、9月～10月の予算編成時に予算要求の根拠にしていただければと思います。

先ほど評価の会議と言いましたが、ある種の進行管理も入っていて、今やっている事への補正や修正をする働きもあります。では、何を基準にやるかということ、現在のアカデミー推進計画であり、それに沿って各分野がどのように動いているのかを考えていきます。

どれくらいの事業があるのでしょうか。

○委員：大まかにいうと、中事項で275項目、細かく言うと1000以上の事業があります。

○会長：たくさんの活動があります。それ自体、評価できることですが、我々が評価するにあたり、個別の事業ごとに積み上げをしていくのは無理だと思います。ある程度、抽象的に見ていかざるを得ません。口で言っても分かりづらいので、後で具体的な例をとって評価を行ってみましょう。千ある事業のうち、270の塊があり、我々は、それをいくつ

か包括しながら見て行くというような形になると思います。

○委員：昨年までは、もっと遅い時期にやっていたが、今回は来年度への提言的なものが可能ということで、取りまとめである第3回目が9月に設定されているという理解でよろしいでしょうか。

○委員：できるだけそのような形が取れるように、今回はその点を修正しました。

○会長：それでは、わからないことがあったら、どのタイミングでも聞いてください。大きな仕掛けが、今のようなことです。では、どのように評価を行っていくかという所を事務局から説明をお願いします。

○事務局：基本構想についての説明がありましたが、そのもとにアカデミー推進計画があり、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の5分野の取りまとめの計画となります。この計画は、平成23年度から平成27年度の5年間の計画であり、評価は、23年度分を24年度で行うという具合に、前年度を評価します。ですから、今年度は25年度の実施結果を評価していただきます。昨年度までの評価の仕方をご説明して、今年の評価を進めていきたいと思えます。評価の仕方について『参考資料1：平成24年度アカデミー推進計画進捗状況評価』で説明。

1つ1つの事業については評価しきれないので、分野別の目標ごとに評価していただきます。

そして、具体的には『資料第4号：平成25年度取組状況結果』で、それぞれの分野ごとに事業概要が記載されていて、25年度の実績が出ています。これとは別に、今日はお渡しできませんでしたが、「事務事業評価」という基本構想の実施計画を評価するシートがあるのですが、このようなものを参考にさせていただきたく思えます。

また、今回は分野ごとに分かれてご意見を伺うこととなりますが、我々課長や担当係長も会議に出席して、各分野の事業の説明をします。こういったことを踏まえて、各分野の目標ごとに、皆さんから意見を伺うということで、評価にしていきたいと考えています。アカデミー推進計画の特徴として、目標が具体的な数値では示されていませんが、皆さんの意見を積み重ねて行って評価にしていきます。

本日は、5分野に加えて、分野別横断型プロジェクトがあるので、そこで評価の練習をしていただきたいと思います。

○会長：繰り返しになりますが、スケール感が大事になるということで、講座の1つ1つについて見て行けないので、計画の10ページに出ている体系図を見てもらうと、そこには5つの柱があり、その脇に基本的な方向が出ているが、我々は分野別の目標レベルの抽象度でないと評価しきれません。それはどういう事かと言うと、時間的余裕があれば各係長から各々の事業の説明を聞くこともできますが、時間的制限がある。この協議会は、今日と分科会と最後の会の3回しかないのです。よって、この3回でまとめるには、分野ごとの目標の桁のところを見て行こうということになります。昨年やった平成24年度の評価（進捗状況評価）で、私がかかわった生涯学習でも、総括があり、次にシートに目標が

出ていて、さらにページごとのシートに目標があります。それは、何を見て評価したかという、取組状況結果を見ると、各分野の基本的方向といった所まで踏み込んだ表が並んでいます。アカデミー推進計画に関わる全部の事業が分野ごとに分類されている。個別の事業がどれだけうまくいったかと言う事も大事だが、計画としてはどんな方向に持っていきたいかも大事。それと照らし合わせて評価して行くという事です。

去年からいらした委員さんなど、ご意見ご質問などありませんか

非常に分量が多いが、時間もありません。もっと細かく見たい等意見もあるでしょうし、課題でもあるのですが、このくらいの抽象感で見方が良いという事もあります。個別の事業では大変頑張っているが、束的なレベルではどうなのかといったところでも見ていただきたいと思います。

まずはやってみるのも大事なので、5つの分野以外にどれとでも被る、関係があるような分野型横断プロジェクトについて、まずは評価をやってみましょう。これは、2件ありますが、分科会では扱わないので、今日と最終回とで皆で評価するものです。

資料4号の33ページです。事業の説明を事務局からお願いします。

○事務局：徳川慶喜没後100年記念事業について説明。

○副会長：100年記念の年とのことですが、事業実施に至るまでにどういう経緯があったのですか。

○事務局：平成24年には森鷗外150年記念事業の一環として、森鷗外記念館を造りました。そのようなことから、生誕、没後などテーマを決め、1年間かけて広く顕彰を実施していこうということになり、実施しました。例えば、今年だと作家の佐藤春夫が没後50年に当たります。事業は小規模で実施していきます。

○委員：どの程度区外に対して、広報したのでしょうか。また、全体を見てみると、「渋い」という印象を受けます。若者が反応するようなものではないと思うのですか、全体のコンセプトはどういうものなのでしょうか。

○事務局：慶喜のゆかりの地は文京区以外にも、松戸市や静岡市が挙げられます。その中で、静岡市でイベントがあったため、それとタイアップして情報発信を行いました。また、都内の記念財団とも連携を行いました。「渋い」という面では、スポットをあてる人物のせいでこうなってしまうというのがあります。企画する側に若者や大学生を取り込むと内容が違ってくるのではないかと考えられます。

○委員：昨年の評価のなかでも申しましたが、文京区には比較的年齢層の高い方に関心が集まるような資源が多いと思います。今後は、若い人の関心が向くような仕掛けができるとういのではないのでしょうか。

○委員：中学生や高校生を惹きつけるのであれば、もっと学校教育の中で取り上げていく必要があると思います。大学生や仕事をしている人をどういうふうにしたら呼び込めるのでしょうか。事業（展示会）への参加者は、60代が多いです。

○事務局：林真理子氏の講演会では、30代、40代の女性が多かったです。

○委員：「渋い＝評価」になる。目標推進型のイメージから評価しようとするとういう形になると思います。何を評価の手段にするかを決めておく必要があると思います。後で、ABCで評価するのでしょうか。

○事務局：この協議会ではABCでは評価しません。『参考資料1：平成24年度アカデミー推進計画進捗状況評価』の3枚目に事務事業評価の対象事業がございます。基本構想に基づく事業を取り上げ、区の内部で数値目標を設定して評価をしたものを、今回参考にさせていただくためにつけています。今年度については、次回の分科会の際にはこのシートをお出しできるという形になります。

○会長：補足しますと、区役所の内部でアカデミー推進事業について、別のところで自己評価を行っています。そこで評価されたものをあくまでも参考に、(協議会の中でも)考えていくということにしました。

○会長：素朴な話ですが、きりのよい人をどうやって見つけたのでしょうか。

○事務局：20年ほど前に「文京ゆかりの文人たち」という冊子を刊行しています。加えて、ふるさと歴史館で郷土史等を調べておりますので、文人・文化関係のデータベース(業績・生年・没年など)を作っており、わかるようにしています。

○委員：夏目漱石は入っていますか。100年になります。

○事務局：入っています。今、新宿で夏目漱石記念館を作っているため、大々的な事業等ははしませんが、タイアップなど協力はしていきます。

○副会長：補足と質問です。進捗状況評価(昨年度実績)の25ページについて、昨年は森鷗外150年記念事業について議論しました。今日我々がやるのは、資料第5号の空白の部分に、意見や議論をまとめるということです。100、150年…とやっている限り、場合によっては渋い企画になるかと思えます。ただ、重要なのであれば顕彰を計画の「位置づけ」の部分に示し、振り返っていくというのもきっかけとして必要なことではないでしょうか。

○委員：「渋い」企画にならないためには、はじめの段階でバランスを取っておかないと、毎度後追いの評価を見ることになるのではないのでしょうか。

○会長：ここで我々が議論している内容を事務局でまとめ、我々が確認するという作業があります。また、そもそも推進計画の中で、分野横断型の厳密な目標がないと言えます。森鷗外や慶喜などの年間企画をさらに実施するというのであれば、分野別横断型について、ある種の運用上のスタイルや軸を決めておいた方がよいのかもしれない。前の年から実施するという事はしないのでしょうか。

○事務局：森鷗外のような大きなイベントでない限り、プレは難しいのではないかと思います。

○委員：横断型の場合、関わる人数が多いとか予算が多いとか、事業としての特徴はあるのでしょうか。

○事務局：昨年度の徳川慶喜事業は、実施しながら規模が拡大していった珍しいケースで

す。区民団体の皆様にも、協力をいただきました。

○委員：テーマ設定がよかったため、役所が仕掛けたこと以外で波及効果があったのかと思います。横断型プロジェクトの場合は、そういった波及効果を計画の目標としたり、アカデミー全体の大きな課題を一つ一つ解決していくような工夫をしたりした方がよいのではないのでしょうか。

○委員：その提言は影響すると思います。事業は大変な量になり、交通整理も必要になってくると思います。ただ、盛り上がりを大きく作れると思います。

○委員：確かに、慶喜事業は区が決めたことではなくて、皆で協力してできた企画だと思います。横断型プロジェクトで言えば、例えば、「学都文京」を売り出していてもいいのではないのでしょうか。

○会長：この一連の企画はだんだんと湧いてきた企画で、一定以上の意味があったのではないのでしょうか。一方で、枠から見た場合に、分野横断をどう位置付けるかを考えていく必要があります。

続いて、スポーツ祭東京2013の事業の説明をお願いします。

○事務局：スポーツ祭東京2013について説明。

○委員：東京オリンピックやスポーツ祭東京までの規模とはいかなくとも、今後、予定されているイベントはありますか。また、今回の取組の改善点などがあれば、教えてください。

○事務局：昨年の国体はボランティアの方にお手伝いいただきましたが、協力していただける方が限られてしまうことが問題となっています。2020年のオリンピックに向けて、ボランティアの育成や大学との連携などが重要となると考えられます。また、国体で得たノウハウを今後の様々な事業に活かしていきたいと思っています。オリンピック・パラリンピックについては、今後の取組について関係部署と連携を図りながら、具体的な方向性を示していく必要があると考えます。

また、イベントについて、文京区にはJFA（日本サッカー協会）の本部があり、区をあげてワールドカップを盛り上げていこうということで、パブリックビューイングやPRコーナーの設置、少年サッカー大会などを実施しました。今後も、オリンピックの気運醸成を念頭に置き、様々な形で取り組みを行っていく必要があります。

○委員：文京区でスポーツイベントを実施したときの質の高さや、スポーツ分野以外の魅力（観光分野など）を追求することで、スポーツを中心とした分野横断型の取組も文京区の武器になっていくのではないのでしょうか。

○事務局：文京区には、本郷の旅館組合や、椿山荘などの大きなホテルがあり、区内で大きなスポーツイベントが開催されれば、宿泊客も増えてゆき、経済波及効果につながると考えています。実際に、今年は空手の国際大会を区内の体育館で行いますので、海外からいらした方に区内の史跡を巡っていただく等の仕掛けも考えながら、取り組んでいきます。

○副会長：去年度の進捗状況評価に「2020東京オリンピック・パラリンピックについ

て、部の枠を超えた連携を図る」という記載がありますが、どのような連携を考えているのでしょうか。

○事務局：今後の方向性としては、スポーツ分野のみならず、アカデミー分野全体や、障害者への理解に関わる分野、道路・標識に関わる分野等、多面的に検討していかなければならないと考えています。

○委員：現在、外国語のボランティアが活動しており、今後は数・質ともに高め、育成していく必要があります。もう一方で、職員の研修を充実させるべきではないか、商店の方々が接客できる程度の語学力を持つ必要があるのではないか、という課題もあります。

○委員：芸術団体としての要望ですが、オリンピックにはファンファーレやマーチなど、音楽との関わりが深く、区内にはシビックホールという立派なホールもあるため、ぜひ有効に活用していただきたいと思います。

○委員：横断型の一番の目標は、「オリンピック・ムーブメント」だと思います。オリンピックがきたときに、オリンピックの財産をどのように子どもたちに伝えていくか、一般の方々にどうやって理解していただくかが重要ではないでしょうか。その部分で、音楽や教育の部分が柱になると考えられます。

○会長：スポーツ祭東京について、観光土産の開発とありますが、お菓子を作られたのでしょうか。

○事務局：こちらは24年度の事業で、文人を顕彰する事業の一環として、森鷗外、樋口一葉、夏目漱石の3人の文人に関係するお土産品の開発を行いました。メディアにも取り上げていただいて、効果的な事業でした。

○会長：お菓子をつくるときに、どのように助成するのでしょうか。

○委員：助成はしていません。専門店が企画に乗っていただき、商品を開発していただいています。

○会長：区はそのプロモートの部分を行っているのですか。

○事務局：はい。取りまとめてひとつのパンフレットにして、売り込みを行いました。事業自体は終了しましたが、現在でも販売を続けていただいているお店もあります。

○会長：いくつかのお店で同じ商品を販売しているのではなく、それぞれのお店が開発するのを支援されたのですか。

○事務局：そうですね。

○委員：国体ですが、文京区は硬派な印象があります。通常国体だと、ゆるキャラが様々なイベントに出たり、B級グルメの大会や大道芸などがあつたりと、派手にやるのが主流になっている中で、文京区は正統派だと思います。もっと大胆に開催しても、面白いのかなと思いました。

○事務局：なるべく会場を盛り上げたいと思い、商店街連合会など、出展の要請はしていたものの、なかなか手を挙げていただけなかったのが現状。また、大々的に開催したかったのですが、会場のキャパシティ等の関係もあり、実際には難しい状況でした。

○会長：お二人がおっしゃっていたことは、東京国体全体がそうかどうか。それとも、文京区がそうかどうか。

○委員：東京国体自体がそのような印象を受けました。非常に硬い感じ。

○委員：東京国体に関連してゆるキャラという話で、文京区の小学校や幼稚園には「ゆりーと」が来たりしたのでしょうか。

○事務局：文京区にも「ゆりーと」の着ぐるみがあり、土日等あちこちのイベントに出没していました。

○委員：それは、このような（分野横断型の）事業としてはカウントされないのでしょうか。

○事務局：国体の報告書には出ていますが、スポーツ祭東京2013の一部分でしかなく、数字として出すようなものではないと考えます。

○委員：ゆるキャラみたいなものを使うと、別の角度から盛り上がるということが感覚としてありました。

○事務局：「ゆりーと」の認知度は非常に高くなり、「ゆりーと」でのPRは効果的であったように思います。

○委員：オリンピックに向けて、1964年から50年でどう変わったのか、ターゲットはどう変わってくるのかというテーマを持つべきだと思います。このオリンピックは、日本が国際化でどう変わるかということにスポットを当てる企画や意識を持つ必要があります。

○事務局：確かに、どう変わっていくのかということは今後考えるべきポイントだと思います。

○委員：地域の話題になるのですが、千駄木地区では千駄木マラソンというのをやって地域の人がみなさん関わって毎年実施しています。そういうところを含めて、地域でやっているスポーツをまとめていくことも大切だと思います。

○事務局：区内では、千駄木マラソンと礪川マラソン2つの大きなマラソンがあります。それ以外にも、イベントがありますので、今後も連携を考えていく必要があります。

○委員：今回の国体は「観るスポーツ」だけだったのか、それとも何か施設との関わりや指導員の養成等はあったのでしょうか。

○事務局：国体に向けて、小石川運動場等の施設の改修を行いました。また、日本サッカー協会から指導員を招いてサッカー教室を行うなど、観るだけでなく、国体開催までの間には、色々な仕掛けを行っています。

○委員：そういったものは実績には入らないのでしょうか。

○事務局：今回は紙面の都合上、詳細について記載はしておりません。

○会長：時間が迫ってきたので、次回以降のことについて話を進めていきます。

○委員：分野別横断事業の資料について、表の枠組みを統一していただければと思います。

○会長：それは重要なことです。後ほど、相談しましょう。

横断型については最後の協議会に再度議論します。次回以降は分科会になります。分科会では、担当の課長や現場の方にお越しいただき、議論を進めていきます。概ね7月～8月。今日は資料が少ないように感じます。次回の分科会については、先生方と事務局とで相談をしながら資料を出していただいた方が評価しやすいと思います。表の枠組みの統一については、個人的な意見としては、可能であればやってもらえればいいと思います。

○委員：5つの分野が記されていないため、わかりにくくなっています。わかりやすく整理したいと思います。

○会長：今後の進め方について。事務局お願いします。

○事務局：分科会については、生涯学習・文化芸術・国際交流分野と、観光・スポーツ分野の2グループに分けたいと思います。原則として、委員の皆様にはどちらかに加わっていただき、9月上旬の全体会で内容をまとめる形を取りたいと思います。

○委員：質問よろしいでしょうか。横断の分野の話し合いはするのでしょうか。

○会長：最後の会で議論します。

○委員：オリンピックを目指して、という議論はしますか。

○会長：重要なお指摘ではありますが、この協議会では特別の場を設けて議論をすることはしません。

○事務局：分科会日時について説明。

○会長：区民委員の方に、どこの分科会に入りたいかお伺いしてもよいでしょうか。

○事務局：区民委員、日程の調整。

○事務局：『資料第6号：文京区アカデミー推進計画協議会・分科会予定』の説明。

○副会長：事務事業評価は、事前に送っていただけますか。

○事務局：なるべくお送りしたいと思います。

○会長：それでは、第1回の推進協議会を終わります。ありがとうございました。